

熊本市における子どもたちの脊柱側弯症検診

第 3 分科会
1
熊本県医師会

中村整形外科

中村 孝文

はじめに：

熊本市においてはまず S62 年演者等が pilot study として熊本市内の数校で側弯症の検診を開始、H 元年に熊本市医師会医に整形外科 6 名、小児科医 1 名にて脊柱側弯検診班が結成された。当初肺結核検診用の胸部間接撮影画像を利用していたが H5 年結核検診廃止に伴い現在の検診システムとなった。(図 1) にその概要をしめすが、一次検診は原則として校医による視触診で 4 項目の check point (図 2) からなる。側弯が疑われた者には二次検診用紙が配布され登録医療機関にて X-P 撮影を受けることとなる。登録医療機関とは 3 年に一度開催される講習会を受講した機関である。二次検診の結果は本人、学校、熊本市医師会ヘルスケアセンターに保存され、同センターでデータの解析、保存が行われる。なお側弯検診班員が毎年数校に直接出向し校医に代わって一次検診を施行している。

結果：

(図 3) に二次検診受診率を示すがほぼ 80% を維持しており良好な結果といえる。Cobb 角 10° 以上を側弯症として捕えると最も発見率の高い中学 1 年生で 2% 前後に認められた (図 4)。また治療が必要となる恐れのある 20° 以上も毎年 10-20 人にみられた (図 5)。ただ異常なしの偽陽性が % と高かったが見逃しをなくす意味では避けられないことと考える。

図1 熊本市の側弯症検診システム

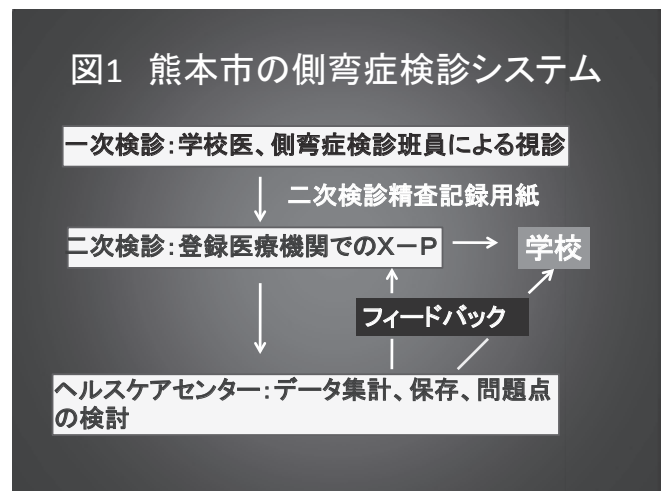


図2 側弯症早期発見のcheck point

1. 肩の高さの非対称性
2. 肩甲骨の非対称性
3. 腋線の非対称性
4. 肋骨隆起

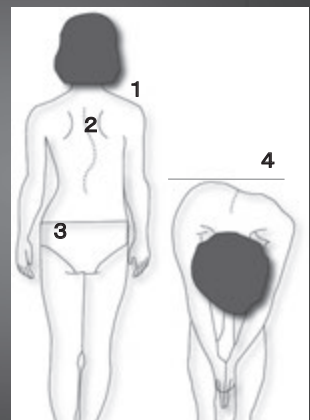


図3 二次検診受診率

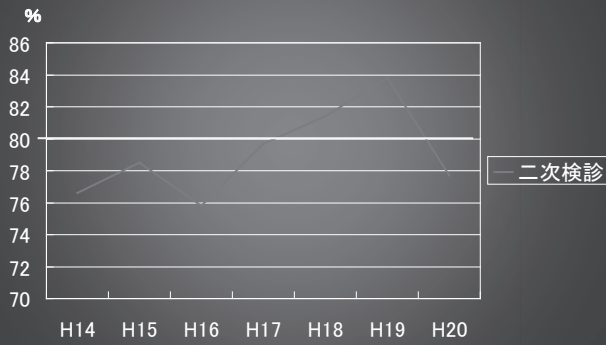


図4 熊本市の側弯症発生率(中1)

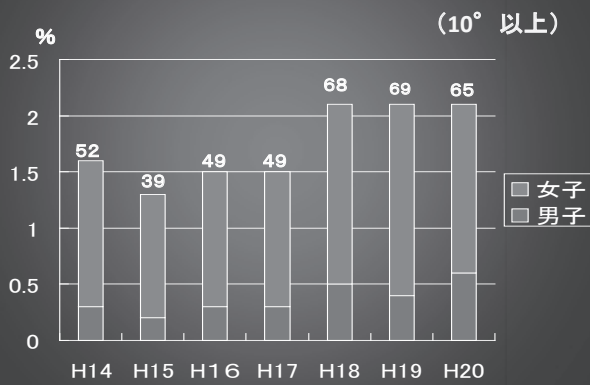


図5 熊本市の側弯症発見数 (中1)

